歴史地震
第30号(2015) 223頁

［講演要旨］

1707 宝永地震による東海道筋損所の大名手伝普請による修復ついて

北原糸子（所属ナシ）

1. はじめに

本発表では東海道筋代官領における宝永地震の被害修復の資料を通じて、この震災に対する幕府の救済・復興事業の在り方を検討する。この時期に集中して発生した自然突発性災害、元禄地震(1703)、宝永地震(1707)、富士山宝永噴火(1707)における幕府の救済・復興事業を、幕政のなかで位置づけるための予備的作業の一環である。

2. 宝永地震による東海道筋幕府領の被害

宝永地震による被害全域の概数は、死者 5,045 人、全壊家屋 56,304、半壊・破損家屋 40,530、流失 19,661、破堤 428,722 間・5,108 箇所、道路 18,975 間・108 箇所などの数値が挙げられている((内閣府(防災担当)『1707 宝永地震報告書』第 5 章、2014 年、21 頁)。当時の資料による東海道筋の伊豆、駿河、遠江の代官領の被害は以下の通りである(表1)。

表1 竹橋余筆による幕府領被害

国名	地頭名	死亡	潰家(軒)	破損家	流失	堤(間)	其の他
近江	雨宮庄九郎・源次郎	1	56	964			大津御蔵7戸庇潰
伊勢	石原清左・大草太郎	－	978	－	－	21204間	往還橋9ヶ所
駿河	窪島市郎兵衛	－	324	344	－	－	
駿河	能勢権兵衛	13	1009	1592	－	－	損馬2
遠江	窪島市郎兵衛	20	1201	2463	－	22976	石垣349間、石枠出66、籠出109、立籠3150本、入樋47艘、橋5ヶ所
遠江	大草太郎左衛門	－	759	－	－	4787	
伊豆	小長谷助左衛門	11	－	－	1168	350間流失	
東海道宿	駿河・遠江東海道筋宿		1642	1639	141	－	
	計	45	5969	7002	1309	49,317	

出典 竹橋余筆別集(近藤出版、昭和60年)、21～30頁

これを全体の被害と比較すると、死者 45/5,045(0.9%)、全壊家屋 5,969/56,304(10.6%)、破損家屋 7,002/40530(17.3%)、流失 1,309/19,661(6.7%)、破堤 49,317/428,772(11.5%)となり、死者発生は 1%以下、流失家屋の比率も 7%以下で相対的に低いが、家屋全壊・半壊破損を含めると、全被害地域の 1 割～2割を占め、破堤も1割強を示す。他の地域に比べて死者の少ない点が顕著であり、流失家屋も伊豆地域に限られるから、津波による被害は相対的に低く、むしろ揺れによって家屋倒壊などの被害が多く出たと推定される。破堤区間は、海岸、河川の双方が含まれると推定されるから、一概に海岸線の堤防被害に限定できない。

3. 救済・復旧事業

これらの地域の被害のうち、東海道宿場、河川堤防、道筋破損、および駿府城被害について大名に普請を命じて補修を図った。この時駿府城、東海道筋修復に動員された大名は以下の7家で(表2・表3)、甲府藩柳沢家については 4 年後の正徳元年の駿府城手伝普請であった。

表2 宝永地震の駿府城石垣修築手伝普請大名

普請大名	手伝普請箇所	手伝普請発令	普請成就期
榊原式部大輔政邦(姫路15万石)	駿府城三之丸	宝永4年12月9日	宝永5年5月
松平越前守定重(桑名11万石)	駿府城三之丸	宝永4年12月9日	宝永5年5月
松平伊豆守信輝(古河7万石)	駿府城三之丸	宝永4年12月9日	宝永5年5月
松平甲斐守吉里(甲府15万石)	本丸、二ノ丸破損所	正徳元,2月	正徳元年12月

出典「駿府御城御普請中記録」(高田市立図書館蔵)
甲府藩御手伝については、「福寿堂年録」(柳沢文庫蔵)

表3 東海道筋修復普請手伝い

大名家	手伝普請箇所	手伝普請発令	普請成就期
酒井左衛門尉忠真(鶴岡14万石)	袋井・金谷・丸子・江尻・島田・興津・大井川・阿部川堤川除	宝永4年12月1日	宝永5年閏正月
本多吉十郎忠孝(越後村上15万石)	摂州守口・江州大津・勢州庄野・四日市・遠州白須賀・舞坂・見附・新居番所	宝永4年12月1日	宝永5年閏正月
真田伊豆守幸道(松代10万石)	駿州由比・蒲原・岩木村・岩淵村・吉原・富士川堤除・相州戸部橋	宝永4年12月1日	宝永5年閏正月

出典「鶏助篇下」『山形県史』資料編6, 364頁(昭和36年)、『四日市市史』昭和5年、746～747頁
「東海道筋砂浚御手伝一件」(国文学研究資料館、真田家文書)
＊酒井家の大井川・安部川堤川除は後日免除となった

4. 松代藩真田家の東海道宿補修について

本発表では、駿河国の東海道筋吉原、富士川相宿(岩本・岩淵)、蒲原、由比宿までを担当した松代藩真田家による手伝普請の実態を報告し、幕府による直接の救済はなされなかったものの、大名手伝普請による修復が、当該震災地域の救済に結果したことを検証する。基本資料となる松代藩の「東海道筋砂浚御手伝一件」(国文学資料館蔵)には「砂浚」とあるが、当該地帯は宝永地震から約 2 ヶ月後に発生した富士山宝永噴火による降灰地域ではないため、実質的には宝永地震に東海道宿の修復であった。まず宝永 4 年 12 月 1 日、老中列座にて普請手伝いが命じられた。12 月 17 日幕府勘定奉行荻原近江守重秀より「御直段被仰渡」、すなわち普請入用額が内示された。この手伝普請では、実際の普請は幕府が指定する御用商人に請け負わせるものであった。真田家の普請入用総額は 15,027 両と銀 10 匁であった。

表4 松代藩手伝い普請

宿・修復地	修復入用金	修復家数
油井	家作入用877両、石橋その他57両1分、銀10匁	240軒(内26件新規建替;214軒破損修復)
蒲原宿	家作入用2646両、往還道入用151両と銀13匁	家数267軒(潰家63軒新規建替、204軒破損修復)、
岩淵村	1176両、地形入用280両、新道通り橋1ヶ所35両と銀13匁、往還道造り62両と銀4匁	家数230軒大破(198軒山際へ所替え、33軒川越？)
岩本村	1082両3分と銀9匁	家数195軒(崩家145新規建替、半崩50軒修復)右のうち71軒は自分にて取立申候、
吉原町	家作入用6840両1分と銀9匁、地形水道入用1187両1分と銀5匁、往還道橋10ヶ所60両2分と銀11匁、潮除堤476両1分と銀9匁	家数472軒(426軒潰家新規建替、46軒破損修復)、